

日点委通信

No.30

2014年11月1日発行

日点委第50回総会を迎える

2014（平26）年に日点委は第50回総会を迎えました。日点委は1966（昭41）年7月に発足し、同年11月、第1回総会を日本点字図書館において開催しました。以後、点字を取り巻く環境が大きく変化する中、点字表記法の決定と修正、その他の事業を進めつつ、第50回総会までたどり着きました。先人から受け継いだ点字の文化を守り育て、次の世代に伝えていきたい——そうした思いを新たにされた総会でした。

統一英語点字（UEB）導入について

UEB(Unified English Braille Code)は、英語を使用する7カ国で組織する国際英語点字協議会(ICEB)が、2004年に国際標準と認めた新しい英語点字です。

UEBは、次の目的でつくられました。①英語圏各国の間の表記法の違いをなくす。②一般文章・数学・理科・情報処理等を統一的に表記する。③一つの記号を意味により書き分けたり読み分けたりする曖昧さをなくす。

ICEBの決定以後、南アフリカ、ナイジェリアがいち早く採用を決めました。イギリスとアメリカの間で揺れているオーストラリアとニュージーランドも加わり、4カ国ともUEBへの移行を終えています。イギリスは2015年末、アメリカは2016年1月を目標に、移行を進めつつあります。カナダは、アメリカに歩調を合わせるものと思われます。

日本の英語教科書などには、これまで北米点字委員会(BANA)の定めた英語点字が使われてきました。UEBにはいくつかの変更点がありますが、その例を示します。

①略字のうち、ble, com, dd, ation, ally, to, into, by, o'clockの9個が廃止される。

②一般文章、数式など、どのような文脈においても、同じ墨字記号はいつも同じ点字記号で表す。例えば、小数点、文末のピリオド、点線はいずれも⠠（②⑤⑥の点）が用いられる。

③カッコ類、コーテーション類の形が整理され、改められる。

例：カッコ（ ） ⠠～⠠→⠠～⠠ 角カッコ [] ⠠～⠠→⠠～⠠

④大文字符、イタリック符の記号、および用法に変更がある。

2014年5月31日（土）～6月1日（日）に開催された第50回総会並びに研究協議会において、日本へのUEB導入をどのように進めるかについて討議されました。

その結果、日本における英語点字の扱いを2本立てとすることとしました。「英語の教科書・試験問題等」の英語の書き方と「一般日本語文章中」に英語の出た場合です。前者には原則としてUEBを導入しますが、後者には一部の記号関係のルールを除きUEBは導入しないこととしました。

同総会において、2016年度発行の中学部教科書におけるUEBの扱いに向けて委員会を設置することが決議されました。それを受けて英語点字特別委員会が組織され、日点委から5名の委員が選出され、外部の関係者にも加わっていただき、検討を開始しています。2014年の暮れくらいまでに案をまとめ、日点委委員に承認していただく手続きを取ることにしています。

塩谷治氏逝去される

日本点字委員会元委員で、筑波大学附属盲学校元副校長、社会福祉法人全国盲ろう者協会前常務理事(事務局長)・塩谷治氏が2014年6月23日に逝去されました。享年70。塩谷氏は『日本点字表記法 2001年版』(日本点字委員会)の編集にも携わりました。同表記法の「第6章 古文の書き表し方」、および「第7章 漢文の書き表し方」の執筆にも大きな力を発揮されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

第50回総会並びに研究協議会報告

2014年5月31日（土）～6月1日（日）、横浜あゆみ荘において第50回総会並びに研究協議会が行われた。委員20名、事務局員4名、会友4名、オブザーバー等20名、計・48名の出席があった。

総会

(1)両界代表委員協議会より、学識経験委員として10名を選出した旨の報告があった。

(2)第12期(2014年度～2017年度)役員等が下記のとおり改選された。会長：木塚泰弘、副会長：金子昭・渡辺昭一、事務局長：当山啓、会計監査委員：塩谷治・高橋秀治、事務局員：小野明男・奥野真里・畑中真弓・畑中優二・和田勉。

(3)2013年度報告事業・決算、各地域委員会報告、2014年度事業計画・予算などが

討議され承認された。

(4)『資料に見る点字表記法の変遷』の在庫の取り扱いについて承認された。

研究協議

1. 「日本点字表記法」検討委員会中間報告

(1)表記法検討委員会より「『日本点字表記法』検討委員会経過報告(Ⅱ)」に基づいて2013年度に4回行われた同委員会の討議要旨が報告された。

(2)同委員会より、「総会の場で、特に意見交換したいこと」として、下記7点が提起され、意見交換が行われた。①記号は墨字の形と一対一に対応した点字の符号を決めていくほうがよいか、これまでどおり意味や機能別に符号を定める考え方がよいか。②パーセント符号は、形が「外文字 p」と同形だが、現行でよいか、変更するとよいか。③句点の後は二マスあけがよいか、一マスあけがよいか。④第2小見出し符を行の途中にも使用できるように用法を拡張することの是非。⑤脚本・対談のレイアウトについて。⑥『表記法』では表中の数値について位取りが望ましいように表現しているが、数符揃えが一般的か。⑦『表記法』において、レイアウトを示している第5章の役割は何か。

意見交換を受けて、検討委員会において継続して議論していくこととした。

2. 文中注記符についての提案(当山啓)

第4章第3節7.の【注意】を【注意2】とし、【注意1】を新設する。

《【注意1】文中注記符が句読符やカギ類、カッコ類、指示符類、外国語引用符に接する場合には、句読符の前、カギ類、カッコ類、指示符類の閉じ符号の前、および外国語引用符の閉じ符号の後ろに置くことを原則とするが、必要に応じて、句読符の後ろ、カギ類、カッコ類、指示符類の閉じ符号の後ろに置くこともできる。そのいずれの場合でもマスあけはしない。文中注記符に数字をはさんで書く場合に限り、文中注記符の⑤⑥の点の前から行移しをすることができる。》

議論を踏まえてさらに検討を続けることとした。

3. 数を含む語の書き表し方について(継続議案)

①「数を含む語の読点や中点の省略について」(第49回総会、東海点字研究会提案)について、関東地区小委員会より検討結果が報告された。

②東海点字研究会より、同提案を別の見方からも検討したい旨の発言があった。

③今後の進め方については、新たな提起を待つこととする。

4. 外文字の使用範囲拡大に向けた検討と提案(継続議案)

「外文字の使用範囲拡大に向けた検討と提案」(第49回総会、近畿点字研究会提案)

について、関東地区小委員会より検討結果が報告された。

討議を受け、今後、近点研において改めて提案していただき、論点を明らかにして協議することとした。

5. UEBの日本への導入に関する提案（近畿点字研究会）

「統一英語点字（UEB）の実像と日本への導入に関する提案」に基づいて「具体的変更点」「UEBで墨字と点字の機械変換が可能になったか」「UEB導入の影響」について説明があった。次いで、「日本の英語点字へのUEB導入に関する提案」が下記のとおり行われた。

《日本における英語点字の扱いを「英語の教科書・試験問題等」と「一般日本語文章中」の二つの場合に分ける。前者には原則としてUEBを導入するが、後者には一部の記号関係のルールを除きUEBは導入しないこととする。》

討議ののち、下記のとおりまとめられた。

①英語の教科書用と一般表記用の2本立ての方向性が承認された。

②2016年度発行の中学部教科書におけるUEBの扱いを検討する委員会を設置する。2014年の暮れくらいまでに、ほぼ結論が出るように作業を進める。決定した内容について委員・事務局員の確認を得る。

6. 「医学用語の点字表記について」の検討（継続議案）

2013年度研究協議会において、金子昭・藤野克己・加藤三保子3氏による「『医学用語の点字表記について』に対する問題提起」が提出された。それを受けて、近畿点字研究会、関東地区小委員会、および宮村健二委員より、検討結果が発表された。

討議を踏まえ、「各地の検討でも、問題がないわけではないが、今すぐ変えようということには至っていない」とまとめられた。

7. 日本点字普及協会の活動について

「点字を指で読む人、目で読む人を増やしたい ― 日本点字普及協会の取り組みについて ―」に基づいて報告が行われた。

8. 『教科書点訳の手引き』（教科書点訳連絡会〔教点連〕）の発行について紹介があった。

日本点字委員会事務局

〒169-8586 東京都新宿区高田馬場1丁目23番4号 日本点字図書館内
電話 03(3209)0671 FAX 03(3209)0672 振替口座 00100-1-42820
ホームページ <http://www.braille.jp/>